

【プレスリリース】「相米慎二 最低な日々」没後 20 年。9 月 9 日の命日に、映画監督・相米慎二、幻のエッセイが出版化

※BCC にて失礼致します

* 情報解禁 8 月 23 日 (月) 午前 11 時

いつもお世話になっております。

「相米慎二 最低な日々」(著者 相米慎二)の出版が決定しました。

2001 年 9 月 9 日、相米慎二監督は、亡くなりました。53 歳でした。今年は没後 20 年の年となります。相米監督は 1994 年から 1995 年にかけて月刊誌でエッセイを連載していました。もはやファンの間でも幻となっていたそのエッセイが、27 年の時を超えて、2021 年の現代に蘇えます。発売は、相米慎二監督の命日である 9 月 9 日。生きていられれば 73 歳でした。

本書「相米慎二 最低な日々」はご自身初の著作となります。その内容は、相米慎二監督のファンなら頷ける世界観であると共に、時にその次元を超えた摩訶不思議な相米慎二ワールドが展開しています。

「あとがきにかえて」ということで、「あとがき」は俳優の永瀬正敏が担当。本書のことはもちろん、「ションベン・ライダー」での出会いからの日々とその想いを綴ってくれます。

永瀬正敏 (本書「あとがきにかえて」から抜粋)

「僕と相米のオヤジ(僕はいつの頃からか彼をオヤジと呼んでいたのも、以下その呼称で続ける)の関係性は、映画監督と俳優というものはるかに超えていて、本当の血縁関係における父と息子のようなものだった(と勝手に思っている)。だから、息子側としては同性の親にまつわるこっぴどかしさが常にあり、会うと八割は不真面目な言葉を投げあった。ただ、ふとした瞬間にオヤジから出てくる重い言葉が会話の一割、二割あり、結局それが今でもずっと僕の心の中に重く残っている。彼の残したエッセイと一緒に、どうでもいいことを書き連ねているんだけど、ラストの締めの一文にオヤジの強い感情が凝縮されていて、その情景が強く浮かんでくる」

さらに、映画ジャーナリスト・金原由佳がインタビューした貴重な原稿を再録。「相米慎二、自作を語る。」は助監督時代の作品、そして、デビュー作「翔んだカップル」から「夏の庭 The Friends」までを語りつくしています。「相米慎二に訊く、50 の質問。」は当時の相米慎二の生の姿を伝える一問一答集。

没後 20 年の本年 2 月、渋谷ユーロスペースで行われた「没後 20 年 作家主義 相米慎二」にはたいへん多くの観客が集まりました。特徴的だったのが、相米慎二を知らないはずの若い世代や女性観客が多かったことです。その人気の高まりから、7 月にも横浜シネマリンで上映が行われました。9 月 11 日より渋谷ユーロスペースにて「台風クラブ」の凱旋上映が決定。今後、命日の 9 月から全国で順次、「没後 20 年 作家主義 相米慎二」の特集上映の予定があります。

渋谷・ユーロスペース 「没後 20 年 作家主義 相米慎二」* 下記 1 本を上映

<http://www.eurospace.co.jp/>

上映期間：

・ 9/11(土)～9/17(金) 「台風クラブ」

富山県・ほとり座 「没後 20 年 作家主義 相米慎二」* 下記 3 本を上映

<https://hotori.jp/>

上映期間：

・ 9/4(土)～9/10(金) 「台風クラブ」

・ 9/11(土)～9/17(金) 「ションベン・ライダー」

・ 9/18(土)～9/24(金) 「風花」

相米慎二を過去の監督としてではなく、現代の作家として、未来の作家として、語っていきましょう。そのとき、本書「相米慎二 最低な日々」は最良のテキストとなるはずです。

「相米慎二 最低な日々」

著者：相米慎二

9 月 9 日（木）発売開始

定価：2,750 円（税込み）

書店及びネット書店、「相米慎二」特集上映の劇場にて販売

発行：A PEOPLE 株式会社

■著者プロフィール

相米慎二

1948 年 1 月 13 日、岩手県盛岡市で生まれた。父親の転勤で 6 歳の時に北海道標茶町に転居し、58 年に父親を失う。その後小学校 5 年の時に札幌市、中学 3 年の時に釧路市に移る。北海道釧路江南高等学校を卒業し、中央大学文学部に進学、72 年同大を中退、長谷川和彦の口利きで契約助監督として日活撮影所に入所した。長谷川や曾根中生、寺山修司の元で主

